

# 時代は回るよ 聖地終幕



吉田拓郎さん



中島みゆきさん

フォークソングの聖地として日本音楽史の名場面を生んできた「ヤマハリゾー トつま恋」(静岡県掛川市)が25日、営業を終了し42年の歴史に幕を下ろす。中島みゆきさんらを輩出したアマチュアコンテストの会場だったこともファンの記憶に刻まれており、「つま恋」の名称や会場施設の存続を求める声が出ている。

【井上知大】

毎月 28.12.21

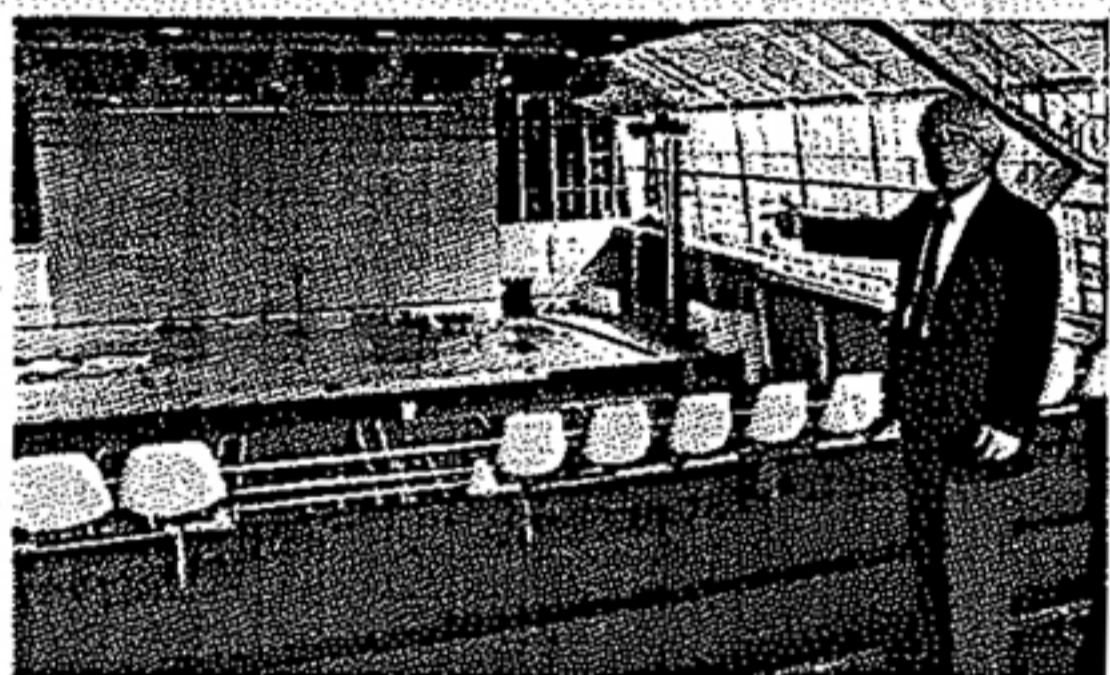
## 25日まで「ポップコン」つま恋 惜しむ声

1974年開業のつま恋 た60代男性は「もう一度は、フォークソング全盛期を築いた吉田拓郎さんと「かぐや姫」が翌年夏、徹夜の野外コンサートで6万5000人を熱狂させ、一躍有名になった。86年まで若手の登竜門「ポピュラーソングコンテスト(ポップコン)」の会場にもなり、75年に「時代」でグランプリに輝いた中島さんらも舞台に立った。

コンサートに現場責任者として関わった木下晃さん(70)は「(会場として)有名になりすぎ、ライブを持ちかけても『恐れ多い』と敬遠された」と振り返る。吉田さんは「75年のコンサートは本当に疲れた。(営業終了は)寂しいね」と話していたという。今月に入ってからファンが集いながら開かれ、70年代に熱狂したかつての若者が足を運ぶ姿が目立つ。鹿児島市から訪れ

た60代男性は「もう一度は、フォークソング全盛期を築いた吉田拓郎さんと「かぐや姫」が翌年夏、徹夜の野外コンサートで6万5000人を熱狂させ、一躍有名になった。86年まで若手の登竜門「ポピュラーソングコンテスト(ポップコン)」の会場にもなり、75年に「時代」でグランプリに輝いた中島さんらも舞台に立った。

静岡県出身の作曲家で、上田正樹さんの「悲しい色やね」、中森明菜さんの「北ウイング」などを手がけた林哲司さん(67)は若いころ、作品をポップコンに送り込んだ。70年代以前は、プロを目指すには録音テープをレコード会社に送って目に留まるか、ライブが注目されるしかなかったが、「ポップコンというオーディション的性格のコンテストで若手のデビューの門戸が広がった」と語る。



1975年8月の野外コンサートで熱狂する若者たち  
「つま恋」ホールで説明をする木下さん(井上知大撮影)

インターネットの普及で、個人でも動画共有サイトを使って世界中へ発信できるようになった。林さんは「つま恋の閉鎖で一つの時代が終わったのかもしれない」と話す。

コンサート会場となった多目的広場やホールの他、ホテルなども併設された複合施設で、83年には食堂でガス爆発事故があり、利用客ら14人が死亡した。老朽化で赤字が続く、経営母体のヤマハ(浜松市)が今年9月に「営業終了」を発表、売却交渉を進めている。掛川市も名称の存続や分割譲渡しないことを要望している。

「フォークの聖地」つま恋 25日で営業終了

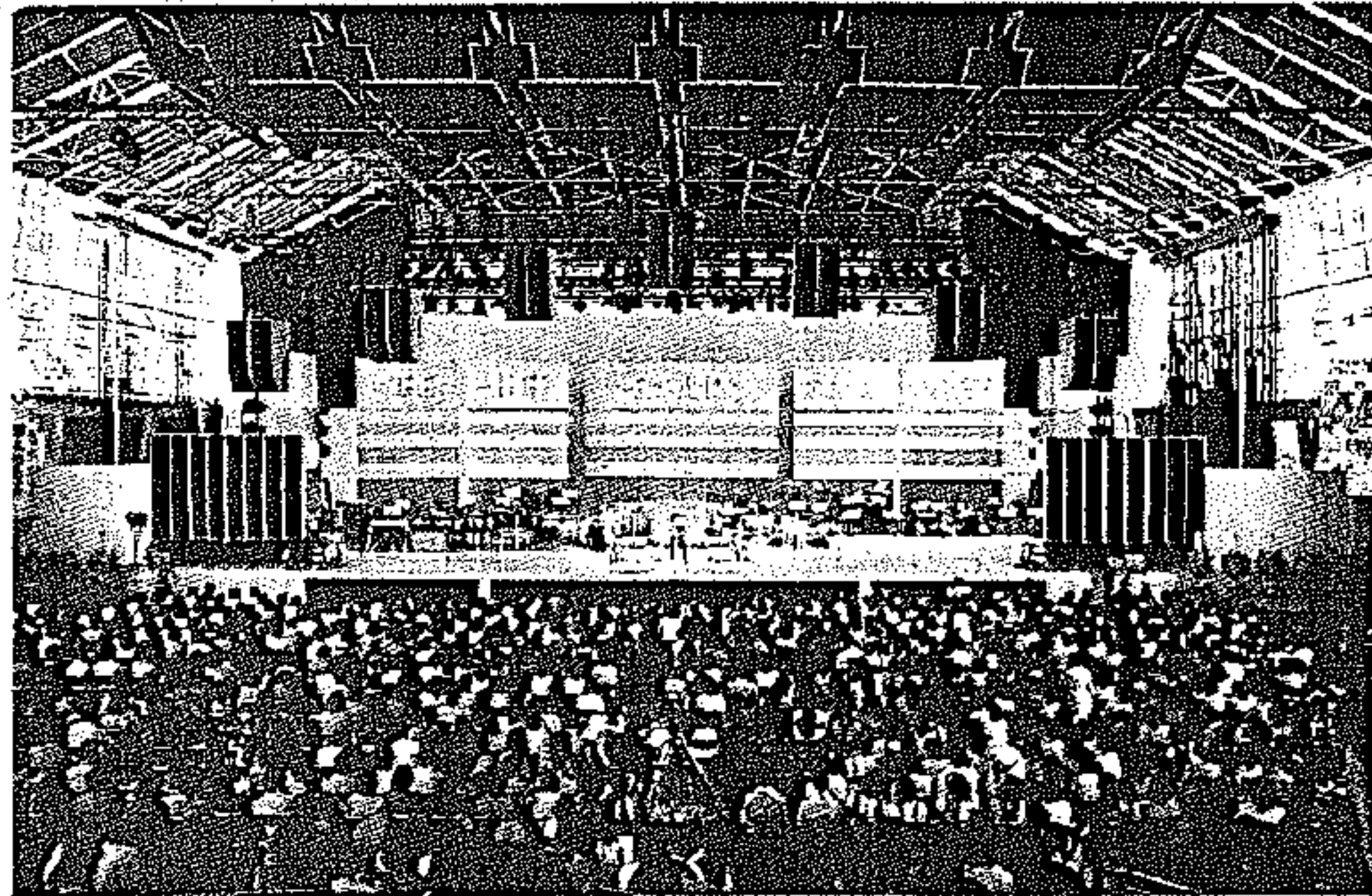
かつて「フォークソングの聖地」と呼ばれたヤマハリゾートつま恋（掛川市）が、25日で一般向け営業を終え40年余りの歴史に幕を下ろす。赤字経営が続いたことが原因。歌手の中島みゆきさんらを輩出したアマチュア音楽コンテストの会場だったことは、50代以上のファンにはあまりに有名。売却先は未定だが、コンサート会場としての存続を願う声が上がっている。

28.12.21 産経

「つま恋」の舞台に立つと売れる」といふシンクスがあった。当時からコンサート

「つま恋」は「JR掛川駅から直で10分ほどの山あいにあるリゾート施設。約140万平方メートルの敷地に、ホテルやテニスコートを備える。開業した昭和49年からエキシビションホールは「ポピュラーソングコンテスト（ポプコン）」の本選会場となり、若手ミュージシャンの登竜門と呼ばれた。50年には吉田拓郎さんとパ

昭和51年の「ポピュラーソングコンテスト（ポプコン）」の会場＝掛川市（ヤマハ提供）



響き渡る音楽もう一度 ファン切望

ヤマハリゾートつま恋の歩み

- 昭和49年5月 掛川市にオープン
- 50年8月 吉田拓郎さんとかぐや姫が野外コンサートで6万5000人動員
- 10月 中島みゆきさんが「時代」を歌い、ポピュラーソングコンテスト（ポプコン）でグランプリ獲得
- 53年 第16回ポプコングランプリに円宏志さん
- 54年 第18回ポプコングランプリにバンド「クリスタルキング」
- 57年 第23回ポプコングランプリにデュオ「あみん」
- 61年 ポプコン終了
- 平成7年 ミスターチルドレンが野外コンサートで3万人動員
- 8年 サガンオールスターズが3万人動員
- 17年 音楽イベント「ao bank fes」開催
- 18年 吉田拓郎さんとかぐや姫が2度目の野外コンサート。3万5000人動員
- 23年 ポルノグラフィティが5万人動員

ンド「かぐや姫」がコンサートを開き、観客6万5千人を動員した。当時、国内最大規模のイベント。野外会場近くでは、開演1カ月前から待ち切れないファンがテントを張り、掛川駅から会場までの約4kmの道のりに人の列が続いた。歓声と歌声は明け方まで響き渡った。

会場に食べ物の屋台の数が少なく、観客が数時間も並んだことや、トイレの設置で地面に多数の穴を掘ったことなど「音楽以外で予想外の配慮が必要だった」。この経験はその後、全国で開かれる音楽イベント「野外フェス」に生かされた。

42年間で150組超のミュージシャンがステージを彩った。流行は移り変わり、集客力は衰えたが、終了を惜しむ声があちこちから木下さんに届く。「やっぱりつま恋で開くコンサートがいい」と笑顔を見せた。

親会社のヤマハによると、企業数社が買い取りに名乗りを上げているが、具体的な売却先はまだ決まっていない。木下さんは「先のこととは分からないけど、つま恋の名は残してほしい」と願う。

営業終了を発表した9月以降、ポプコン出場者たちや、野外コンサートを聞いた「がつての若者」が集まり、思い出に浸る姿が目立つようになった。千葉県会社員、滝草正純さん(57)は「つま恋の核はやっぱり音楽。もう一度ここでコンサートが見たい」と話す。

野外広場に再び音楽が響き渡るのを、ファンは望んでいる。



ヤマハリゾートつま恋開業時から音楽イベントに携わってきた木下晃さん。9月、掛川市